

アフマディヤ (下) :

:

明:

ミルザ グラ ム アフマドによる冒行の要と、正派ムスリムによるアフマディヤへの姿を含む、アフマディヤについての括。

目: [事代におけるイスラムから派生した宗派](#)

より: アブドッラフマン ムラド

2015年8月4日

集日 2015年8月24日

自称 言者による冒行



神によって遣わされたすべての使徒と 言者は、数々の奇によって援助されました。そのことを知っていたミルザは、彼の生前に されるという「予言」をでっち上げる必要がありました。そうすることにより、彼の 言者性を尤もらしくしようとしたのです。予言を行うにあたっては、人々に する 得力が求められます。ミルザはこう しています。

「神は 繁な降雨がもたらされると私に 示した。その 繁さから、多くの村は被害を被るであろう。その、大模な地震が くだらう。」

彼の追者たちの一部は、指者が予言をしたことについて喜しました。しかし、それは予言としての基をたさないものでした。彼は降雨がどこでもたらされるかには言及していません。もちろん、理的にそれは世界中のどこにおいても起き得ることです。

このような予言から、彼は期待した数の追者たちを得ることができず、神から示されていたとされる「予言」を的中させる必要性に迫られていました。それゆえ彼は1886年の2月20日、神は彼に祝福された女性たちを娶らせ、それらの女性から数多くの子どもが生まれることが示されたと宣言しました。その予言をした当、彼は46でしたが、「ムハンマディベグム」という名の女性との婚宣言にもならず、一人として婚できなかったのです。

ムハンマディベグムは、追者の一人だったアフマドベグの娘でした。ミルザグラムアフマドは彼女の父に彼女を娶らせてくれるようみましたが、父はそれを拒みました。必死になったミルザは、彼女との婚は神の定めであると宣言しました。彼はや多の富をアフマドベグに申しみましたが、それでも思惑通りには行きませんでした。その、彼は彼女との婚の可をくれるようするようになりましたが、それも失にわたったとき、彼を迫るようになりしました。アフマドベグは断固として折れず、娘を一般人の兵士と婚させました。するとミルザはムハンマディの夫はやがて死ぬのであり、その彼女は自分と婚するのだと宣言しました。それがするまでには3年かかると定めましたが、20年にミルザグラムアフマドは死んだものの、兵士はその40年に渡って生きけ、女性の方はさらに寿だったのです。

予言の失の例としては、アブドッラアサムというキリスト教徒にしてのものがあります。1893年、その人物とミルザとのにあるが持ち上がり、双方ともににつことはなかったものの、それによってミルザは非常に慨しました。1883年の6月5日、彼はアブドッラアサムが15ヶ月以内（1894年9月5日迄）に死ぬということを神に告げ知らされたと宣言しました。期限はぎたものの、アブドッラアサムはそのもきに渡り生きけました。

スンナ派ムスリムのアブドル＝ハキム博士がミルザグラムアフマドと言い合いになり、彼との公を呼びかけ、その中で彼を嘘つき呼ばわりした、ミルザは激怒しアブドル

＝ハキムは彼の生前に死ぬことを予言しました。1907年の5月4日、アブドル＝ハキム博士は同様に、ミルザグラムアフマドが彼の前に死ぬであろうと予言をし返しました。ミルザグラムアフマドはそれから一年の1908年5月26日に、68で亡くなりましたが、アブドル＝ハキム博士はそのも年生きしたのです。

予言を2度外し、自ら言者であることを明してしまった彼は、

「に、われらはな男をもたらず吉を与える」

と神に示されたことを宣言します。彼は男の生が1907年の9月16日となることを宣言しますが、することはありませんでした。さらに1907年の10月、神によって

「われはやがてな男をあなたに与えるであろう」

というの示を受けたとも申し、その子をヤハヤと命名すると宣言しますが、その男も生まれることはなく、彼による言者の主は全くの嘘であることをさらに明してしまうのです。

カディヤニ派にするムスリムの姿

アフマディ、またはミルザイとしても知られるカディヤニ派は、数千人ものムスリム学者たちによって、非ムスリムであると宣言されています。以下の文章は、イスラム法会（Islamic Fiqh Council）によって表されているものです。

ミルザグラムアフマドが言者であり、示を受けたという主は、彼自身と彼に合意する者を背教者とし、イスラムのから逸脱させる。ラホル派（「イスラム宣教のラホルアフマディヤ」）については、カディヤニ派の主流派であり、彼らにも同に背教の裁定が当てはめられる。それは彼らがミルザについて「言者ムハンマドの影であり、である」と主するからである。

このことは、ヒジュラ1394年のラビウル＝アウフル月（1974年4月）14-18日に、サウジアラビアのマッカで催されたイスラム世界盟会においても言及され、アフマディヤ／カディヤニ派がムスリムでないということについて、会が一致でにしています。

